

23年度予算案に対して代表質問

中学校にスクールランチを

公明党横浜市区議員 団

仁田 まさととし

平成23年度の予算案を審議する市会第1回定例会が行われています。私は2月18日の予算代表質疑で公明党横浜市区議員団を代表し、市政運営の基本方針や市の課題について林市長に質問しました。

モデル校の指定を

現在、市立中学校の昼食は家庭から持参する弁当が基本です。9割近い生徒が弁当を持参していますが、

保護者からは「栄養のバランスが十分ではない」などの声が聞かれます。また、女性の社会進出が進み、弁当作りの時間が取りづらくなっている事実もあります。

私は10年以上前から昼食を外業者者に委託する横浜方式の「スクールランチ」制度の実施を市に求めています。



仁田まさとし プロフィール

- 環境創造・資源循環委員会委員
- 国際文化都市特別委員会委員
- 公明党横浜市区議員団団長
- ◇施政方針は「大胆に挑戦、誠実に実現」
- ホームページ <http://www.nitta-m.jp/>

質問でもそれを探めると同時に、学校関係者、栄養士、保護者などが中学校昼食について検討するモデル校を指定するべきだと主張しました。さらに、食育を推進する立場や、子育て支援、男女共同参画社会を目指す立場からも、市が中学校昼食という課題を解決するべきだと訴えました。林市長は「昼食の仕組みが早期にできることが望ましい」と答弁しました。

市立みなと赤十字病院のアレルギーセンターは、開業から6年が経過もなく開設から6年が経過

高齢者・心身両面の健康づくり

します。アレルギー疾患の診療には時間がかかり、病院経営の面では厳しいものがあります。公的病院とありますが、アレルギー疾患医療が後退してはならないと考え、医療人材の確保や患

2025年には65歳以上の高齢者が市内で100万人を超え、4人に1人が高齢者になるという課題を懸念しています。そのため、健康づくりの取組みがこれまで以上に重要になってきます。市は昨年公表した中期4年計画で高齢者の心身両面の健康づくりと地域活性化を目指す「100万人の健康づくり戦略」を掲げました。そこで出された社会貢献活動への参加といった取り組みを進めたいと答弁しました。